

世界の列車トイレ

ーモロッコー

N P O 21 世紀水倶楽部

清水 洽

今回は京都大学鉄道研究会OB 路次安憲さんからの情報です。

モロッコはアフリカ大陸の北西側に位置し、地中海、大西洋とスペイン領サハラ砂漠と南のアルジェリアとに国境を有するイスラム教スンニ派の立憲君主の国です。

国土44.6万km²（日本の約1.2倍）に人口3244万人（2006年現在）を有する、親欧米路線を基調としたアラブ連盟の国です。元はフランス保護領でしたが1956年に独立しました。そのため言語はフランス語とアラブ語（公用語）で、国のインフラ整備もフランスに多く依存していました。

モロッコの鉄道は国有ですが、路線は日本のように全土には敷設されていません。幹線は地中海のジブラルタル海峡入り口、タンジェから、首都ラバト、カサブランカ経由マラケッシュまでの南北を走る線と、アルジェリアの国境近くの町ウジタからフェズ、メクネスを経て首都ラバトやタンジェに通じる東西を走る線があります。その中でもタンジェからカサブランカ（421km）まで運転されている豪華特急ベイダ（フランス製のディーゼル機関車の牽引）とマラケッシュからカサブランカ、首都ラバト経由フェズまで行く急行カサブランカ・エクスプレス（フランス製の電気機関車の牽引）が有名です。



写真1 マルケッシュ駅にて、カサブランカ・エクスプレスの機関車連結。

トイレの下に汚物流し管を見ることが出来ます。 08.11.28

（路次安憲氏提供）



写真2 カサブランカ・エクスプレスの列車トイレ。水洗ですが汚物は垂れ流しです。(路次安憲氏提供)



写真3 カサブランカ・エクスプレスの車内から。残念ながら汚物流し管は見えません。(路地安憲氏提供)



写真4 カサブランカ・エクスプレスの交換風景 (路次安憲氏提供)

引用文献

櫻井 寛著「今すぐ乗りたい! 「世界名列車」の旅」 新潮社 2007年2月25日